



人づくりで

21世紀の金属プレス工業界を共に生きる



つなげる



あなたの技能と
経験が、いま求め
られています

モノづくり



SENIOR PARTNER

ごあいさつ



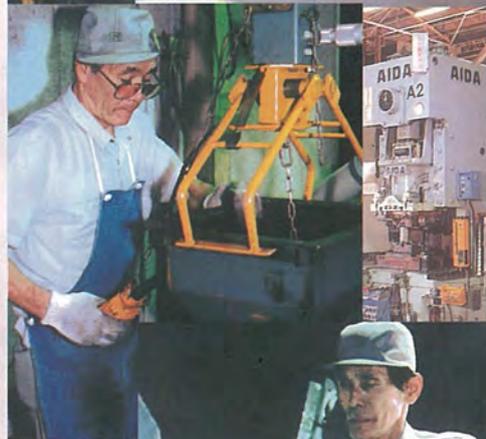
社団法人 日本金属プレス工業協会

会長 **江口昌典**

高齢者の方々が長年にわたって蓄積された経験やノウハウは、企業の競争力の重要な源の一つです。

本パンフレットでご紹介した皆様は、今まで培ってきた経験をいかし、自信を持って生き生きとご活躍されている方々です。

これまで日本のものづくりを支えてきた現場の知恵と創意工夫は、今後もますます重要性が増していくでしょう。皆様がこれまで培われてきた経験やノウハウはもちろんのこと、現場の知恵と創意工夫の重要性、ひいては、ものづくりを支えているという誇りを、次世代に引き継いで頂きたいと願っております。



いきいきと働くみなさんの声を聞きました。

豊かな経験、たしかかな技能——シニア世代が次世代に手渡す財産です。

日本金属プレス工業協会に加盟する事業所を訪問し、働くシニア世代のお話をうかがってまいりました。どの方も、やれるかぎりずっと働き続けたい、と若々しくお過ごしです。「こんな働く仲間がいるんだな」「私もそう思うな」「自分もまだまだやれるぞ」と、うなずかれる皆さんも多いのでは？

※年齢は取材時現在のものです。

要は年齢よりやる気。今でも外で情報収集してくるのが楽しみです。

大村康友さん（昭和13年生まれ、63歳）

勤務先／株式会社土谷製作所（北海道札幌市 酪農用機器及び施設の開発・製造）

大村さんは酪農機械メーカーでプラント設計に携わったのち、土谷製作所に移籍した。以来、商品の改良、開発に取り組んできた。技術部長として定年を迎え、今は技術顧問として、部の統括と設計技術者の育成にあたる。

「若手には」設計に関しては常に課題を与え、自分で考えさせるようにしています。図面の上ではわからないこともあり、設置工事やアフターサービスで現場（酪農家）を体験させ、その中で技術を身につけていってもらいます。設計技術者は現

場の声を聞くことがとても大事だという。「土谷では誰でもセールズと製造の現場を体験することになっている。私も現場で3、4年ものづくりをやりました。その経験が設計（技術部）に移ったときに生きていますね。農家の奥さんのなにげない一言が、発想や改良のヒントになるんです。試行錯誤して設計、施工していく中で、若い人にも問題への対応能力をつけてほしい」

毎日フルタイムで来ているが体力的な支障を感じることは全くないそうだ。「椅子に



←現役時代同様、技術のチェックに目を光らせる。自ら手掛けた製品の前に。

座り続けていると足腰が弱くなるんじゃないかとかえって不安で、会社ではしょっちゅう動き回るようにしています。気力の続くかぎりずっと会社にいたいですね。要は年齢より気力、やる気だと思いますよ。今でも外で情報収集してくるのが楽しみです」（2001年7月取材）

←「自分の知識を後進に引き継ぐまではやめられません」



づくりの仕事は苦勞も多いですが、難しければ難しいほどできたときの喜びは大きい。そのプロセスの楽しさを若い人にも味わってほしいですね」（2001年7月取材）

常に新しい技術にチャレンジしていくことに生きがいを感じています。

宮崎清剛さん（昭和12年生まれ、64歳）

勤務先／株式会社小松電業所（石川県小松市 薄物板金のプレス、溶接、塗装、産業用制御装置の設計製作）

宮崎さんは塗装、品質検査、制御盤（プレスの電気制御）等を経験し、現在、多くのセクションを経て培われた経験知と技術力で、図面を元にした試作に携わっている。

「仕事で忙しすぎたのか、のめりこんでしまったのか、途中、苦しかったという感覚は覚えがなくて、知らぬ間にここまでできてしまった。もうそろそろやめようかなと思つたときには（ほかで雇用されるには）年をとるすぎていま

にいるほうが長いんです」と屈託のない宮崎さん。試作品のレベルを上げるために1週間ほど徹夜が続いたことがあった。しかし仕事があることに生きがいを感じているという。「いったい何歳までできるのか、体の続くかぎりこの仕事を続けたいですね」



←コツコツと丁寧な仕事ぶりには定評がある。

作業の標準書は得意のパソコンを駆使して作り上げる。「今は新しい技術を使いこなしていかなければ仕事にならない。たとえばITなど新技術にチャレンジしていくことに、私は生きがいを感じます。大事なところはチャレンジ精神を持ち続けることですよ」

これまでの経験からいえることは「仕事は段取り八分」。若い社員は応用がきかず、作業手順を指示しないと先に進まない。だから宮崎さんは自ら1工程ずつデジタルカメラで写真を撮って教える。道をつけてやれば工程通りに集中して作業するそうだ。「自分の子どものような若い社員と上手にやっていくためには時にははしかることもあります」。職人気質の宮崎さんは、今日も新しい波に柔軟に対応し続けている。（2001年7月取材）

品質管理は不良品が出ない仕組みを作らなくては いけません。

星野康彦さん（昭和16年生まれ、60歳）

勤務先／株式会社サンテック（神奈川県横須賀市 自動車・機械・電気部品等の製作・加工）

星野さんは製造、工機、技術と多部門を経験、品質管理責任者として定年を迎えた。現在も品質管理課課長として、品質管理の人材育成にあたる。

品質管理は、検査のほかに顧客と現場の調整も行なう、最も気苦勞の多い部門という。「抽出検査ですから全部はできませんが、1つ不良品があったら、納品したものの全部回収です。個数は数百から数千にもなります。必ず現場に伝えて、対策を考えて二度と不良品が出ない仕組みを作らなくては いけません。だいたい不良品が出るのは4M変動があったときです。4Mと

は、マン（人）、マシン（機械）、マテリアル（素材）、メソッド（方法）。条件が変わると何かが起こりますね」最近自動車のほか電気関係の部品も多く扱うが、規格は格段に厳しく、大小合わせて月10件ぐらいのクレームがある。夜明け前から電車で長時間ゆられて得意先に向き、不良品の選別に行ったこともある。苦勞譚は数えきれない。

その一方、平成10年、品質保証の国際規格ISO9001を認証取得した。責任者の星野さんは「申請の要件を作成するのにそうとうきつかったです。通ったときはさすがに嬉しかったですね。3年ごとの更新審査もこの前（平成13年）合格し、ほっとしています」座右の銘は「忍耐」。「もの

定年過ぎた人も、自分を見限らないで働いてください。

小串新治さん（昭和13年生まれ、63歳）

仕事も仲間も大事にしたいですね。

寺本剛さん（昭和9年生まれ、67歳）

勤務先／武田工業株式会社（愛知県刈谷市 精密パーツの設計、生産、販売）



←居心地の良さに満足、という。



←休日には釣りを楽しむ。

気張ってますが、趣味と仕事の両立で生活が楽しいです。

北川法子さん (昭和14年生まれ、62歳)

勤務先／株式会社阪口製作所
(京都市伏見区 自動車用安全部品・他金属部品の設計、製作、プレス加工、組立)

「この企業でも『技能伝承役』のベテランが不足しているが、北川さんはその数少ない一人だ。精密機器メーカーの事業所で40年間、品質保証部で検査に携わってきた。定年後、阪口製作所に顧問待遇で週4日勤務している。



↑「買物でも商品のキズをいつのまにかチェックしています」と笑う。

検査、基準書作り、図面の整理などのほか、若手にノギスや三次元測定機などの検査機器の使い方をOJTで教えていく。「若い人は素直ですけど、まだあまり自信がないようで、『北川さん、1回やってみせて』と頼ってくる。でもなるべく一人でやらせるようにしています。まだ足りない機械もありますし、品質検査部門の体制も作っていないのもこれからです」と意欲的だ。

「私の若い頃は検査部なんてなかったんです。倉庫で部品管理をしていて、機械に向かう表情は真剣そのもの。しかし、仕事一筋という気負いはない。休日には免許皆伝の華道の稽古にいらしむ。『趣味も仕事も両方あったからやっつてくれたんでしょね。仕事だけだったら疲れてしまふ。両立できて生活が楽しいです』(2001年8月取材)

様々なことに関わり、知識と経験を増やしていく。人生も同じです。

戸花健一さん (昭和15年生まれ、61歳)

勤務先／富士工業株式会社
(神奈川県相模原市 厨房用電気製品(レンジフード及び電気器具)の開発・製造)

戸花さんは一流製鉄メーカーから富士工業に出向・転籍後、定年を迎えた。人や設備、作業、材料等を総合した生産システムの設計・改善を行なうIE (Industrial Engineering)

技術の設備業務に携わっていたが、そのノウハウを活かしてほしいと富士工業に要請された。

同社では平成9年からTPM (Total Productive Maintenance) とは設備保全等を含めた無駄を省く取り組みのことだ。特に、清掃をする、作業効率を上げる、故障をなくすといった独自の地道な活動を積み重ね、12年には優秀賞を受賞した。

戸花さんは再雇用1年目に、電気関連設備業務でのTPM活動を完成させた。「当初は進め方がよくわからず手



↑マイペースで、いいながら知識と経験を増やすことにこだわった。

武田工業では平成9年度、(財) 高齢者雇用開発協会と共同研究で、職場環境改善のために「高齢者プロジェクト」に取り組んだ。対象となったのは高齢者が従事するバリ取り作業(「バリ」とは抜き打ちや鍛造等加工の際に生じる不要な「かえり」部分)。

今回の支援機器の導入やレイアウトの改善によって、これまでの足腰への無理な負担が解消され、作業が楽になったと従業員には大いに喜ばれている。



バリ取り作業に携わる小串さん、寺本さんは、ともにトヨタ関連の部品工場で長く働き、武田工業には60歳を過ぎてもからハローワーク(職安)を通じて入ってきた。

見をいえるんで気持ちがいい。作業も体に負担がからないから、不良品が出ないよう集中できる。長年鉄をいじっているから仕事に關しては不安はないです。夏場の(工場内の)温度がきつい程度。体調をきちんとして仕事を長く続けられるように気を付けています」

新しい仕事が来んかな、と待ち遠しい。

窪田勝美さん (昭和15年生まれ、61歳)

働くことは元気に若く
いられることやね。

羽納ヤス子さん (昭和15年生まれ、61歳)

試作は形になっていく喜びがある。

難波基さん (昭和16年生まれ、60歳)

勤務先／株式会社コウサイ
(岡山県岡山市 自動車部品、鉄道車両部品、農機具等の試作、プレス、溶接、レーザー加工等)

長年勤務する従業員が多くいるコウサイで、現在継続雇用されているのは、プレスの窪田さん、羽納さん、溶接の難波さんの3人。10年、20年と働き続けてきたみなさんは、継続雇用の話が出たとき

探り状態で始めました。でも(仕事)が滑りだしたら苦労は特になかったですね。長年の経験が早速ものをいっただけだ。引き続き電気設備等構内の管理業務に就いている。

働くシニアにも経験に裏打ちされたアドバイスをする。「浅く広くても、知識はないよりあるほうが有利。また、自分はこれしかやらないという考え方はだめ。さまざまなかんじを見聞きし関わりながら、いろいろと吸収し、知識と経験を増やしていく。人生も同じではないでしょうか」(2001年8月取材)

一も二もなく決めた。そのまま働き続けるのはごく自然だったし、体を動かすのに抵抗がない人ばかりだ。

「60過ぎて(能力は)急に変わりやせん。いくつになっても勉強しようという、新しいものに取り組む姿勢が大。マンネリしとつたらいかん」と窪田さんは働く高齢者にエールを送る。(2001年8月取材)



↑休日はゴルフにいそしむ。



↑仕事の傍ら若手指導も。



↑通勤はバイクで、と若々しい。

生涯現役を目指して

新しい技術・技能へのチャレンジで広がる活躍の場

現在、日本の人口の6人に1人は65歳以上、まさに「21世紀は高齢社会」といえます。

金属プレス加工業においては、長い経験に培われた熟練した技術者の力は欠くことのできないものです。企業は、年齢には関係なく、意欲、健康、技術・技能を持ち続けるみなさんの活躍に大きな期待をよせています。

みなさんが常に新しい技術にチャレンジし、自分を磨き続けることは、みなさんの生活に大きな「やりがい」をもたらすとともに、若い世代にも活気をもたらし、企業を支える大きな力となるでしょう。

すでに(社)日本金属プレス工業協会では、「人材教育・訓練事業」「金属プレス加工技術研究会」「会員の交流促進と相互研鑽」などの事業を行なっております。このような機会を有効に活用してみませんか。

□ 人材教育・訓練事業

人材の育成と能力の開発を進めるために、各地区工業会(協同組合)との連携により、専門家による経営・技術に関する実務教育事業を実施しています。

□ 金属プレス加工技術研究会

金属プレス加工業が提案型企业へと脱皮するために、高付加価値化と収益性の向上を目的とした研究会を開催しています。研究会では最新の加工技術の紹介と今後の動向について、有識者を中心の技術のエキスパートを講師に迎え、加工事例の発表やディスカッションを行なっています。

□ 会員の交流と相互研鑽

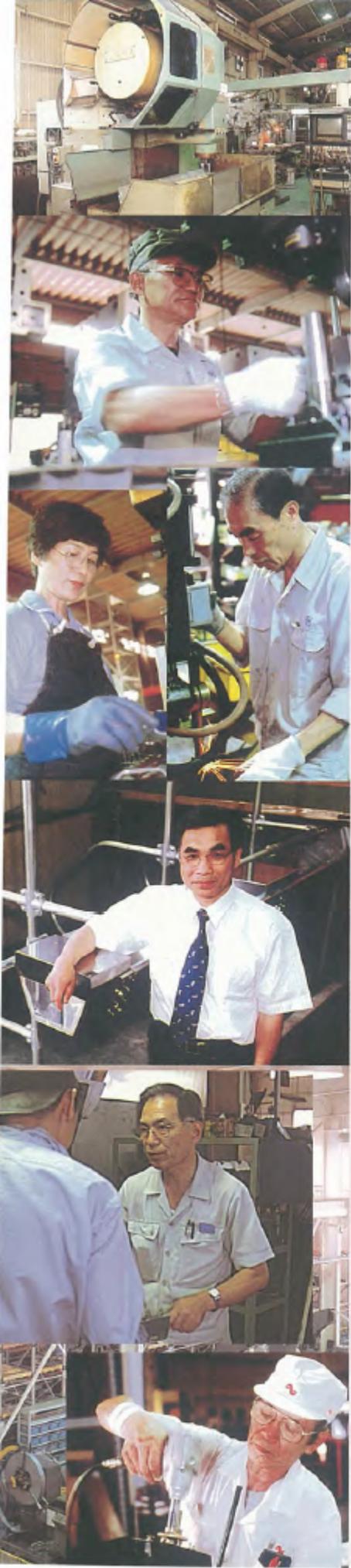
会員企業の経営体質の強化を目的に、優良企業見学会、経営者交流会などを開催し情報交流、相互研鑽を図っています。また、若手経営者を中心とした全国青年部連絡協議会による勉強会、情報意見交換会、工場見学会も実施しています。

<関係機関のご紹介>

財団法人高齢者雇用開発協会：<http://www.assoc-elder.or.jp/>

雇用・能力開発機構：<http://www.ehdo.go.jp/>

中央職業能力開発協会：<http://www.javada.or.jp/>



人づくりでつなげるモノづくり

SENIOR PARTNER



21世紀の金属プレス工業界を共に生きる

発行：2002年3月
発行者：社団法人日本金属プレス工業協会
東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館212号室
電話：03-3433-3730 ファクス：03-3433-7505
<http://www.nikken.or.jp/>
製作：(株)ニッセイ基礎研究所
編集：(株)エイ・ワン

取材協力：(有)新井イッセー事務所
撮影：遠藤直次
デザイン：薮ふく子

印刷・製本：(株)新生社
※本誌記事・写真等の無断転載および複写を禁じます。